ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　102　号
２０１２．３．21

目　次

2012年度総会・研究大会の開催について……1
2012年度総会について……1
2012年度研究大会「アイヌ文化の『集落』研究」……1
2011年度遺跡調査報告会の実施報告……2
月例研究会のお知らせ……2
北海道考古学会の歩み（２）……2
事務連絡……4
入会者のお知らせ……4
会費納入のお願い……4

2012年度 北海道考古学会総会・研究大会の開催について

2012年度総会について

2012年度総会を研究大会の昼食休憩前に同一会場にて開催します。総会は会員が会の運営に直接参加する重要な機会ですので、多くの会員の出席を期待します。なお、やむをえず欠席される予定の会員は、必ず委任状を提出されるようお願い致します。

日時：2012年５月12日(土)　11：30～12：10
会場：北海道大学学術交流会館　講堂（札幌市北区北８条西５丁目）

2012年度研究大会「アイヌ文化の『集落』研究」

近年調査例が増加しているアイヌ文化期の集落跡について、これまで解明された事項や、今後の課題・展望について考えていきます。

日時：2012年５月12日(土)　10：00～17：30
会場：北海道大学　学術交流会館（札幌市北区北８条西５丁目）
交通：JR札幌駅北口　徒歩７分（北大正門から入るとすぐ左手に見えます）
＊駐車場はございません。公共の交通機関でお越しください。

内容：
（午前の部）
９：30　開　場・受　付
10：00～10：10　開　会
10：10～10：50　「平取町におけるアイヌ集落構造」森岡健治氏（平取町教育委員会（沙流川歴史館））
10：50～11：30　「発掘されたコタンの事例－千歳市・恵庭市－」三浦正人氏（(財)北海道埋蔵文化財センター）
11：30～12：10　北海道考古学会総会
（午後の部）
13：00～13：40　「厚真町におけるアイヌ文化期の集落跡」乾哲也氏（厚真町教育委員会）
13：40～14：20　「上ノ国とその周辺のアイヌ資料」松崎水穂氏（元上ノ国町教育委員会）
14：20～15：00　「道東についての予察－標津遺跡群を題材に－」小野哲也氏（標津町教育委員会（ポー川史跡自然公園））

15：00～15：40　「建築学から見たアイヌの建築文化」小林孝二氏（北海道開拓記念館）
15：50～17：20　全体討論　＊司会：古原敏弘氏（北海道立アイヌ民族文化研究センター）

※　報告のタイトルは変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。
※　資料代として、1,000円（予定）を申し受けます。
※　研究大会終了後、懇親会を大学構内「きゃら亭」にて行います（17：45～19：45。会費は3,500円）。

2011年度 遺跡調査報告会の実施報告

今年度の遺跡調査報告会は、2011年12月17日(土)に、北海道大学人文科総合研究棟にて行われました。2011年に北海道内で行われた発掘調査は約70件に及び、その中から道内各地の縄文時代から近世（アイヌ文化期）までの各時代・時期に及ぶ９件の調査が報告されました。報告された調査の目的は、開発に伴う記録保存のための調査、遺跡の範囲・内容を確認するための分布調査及び学術研究調査などです。

発表者からはそれぞれの目的による調査方法や実践例について、調査の観点や調査プロセス等の解説も含めて報告頂き、調査成果の理解に向け、意義のあるものとなりました。

なお、報告会終了後には恒例の懇親会が催され、会場では、情報交換と交流が行われました。

〔発表遺跡〕
① 木古内町　大平遺跡
② 木古内町　札苅６遺跡
③ 北斗市　押上１遺跡
④ 江別市　対雁２遺跡
⑤ 伊達市　北黄金２遺跡
⑥ 洞爺湖町　入江・高砂貝塚
⑦ 札幌市　K39遺跡
⑧ 北斗市　矢不来館跡
⑨ 伊達市　カムイタプコプ下遺跡

月例研究会のお知らせ

2012年度も月例研究会を実施いたします。発表を希望される会員は、学会事務局までご連絡下さい。お待ちしております。

６・７月は以下の発表を予定しております。日時・会場については、学会ホームページに最新の情報を掲示いたしますので、事前にご確認をお願い致します。

第１回月例研究会
○日　時：６月30日(土)　15：00～
○場　所：北海道大学（予定）
○発表者：大塚宜明氏（明治大学大学院博士課程）
○テーマ：北海道島における旧石器文化のはじまり―不定形石器群の位置づけを通して―

第２回月例研究会
○日　時：７月28日(土)　15：00～
○場　所：北海道大学（予定）
○発表者：大坂拓氏（宮城県教育委員会）
○テーマ：本州東北部弥生社会の変動と北海道

北海道考古学会の歩み（２）

大谷　敏三

（承前）

北海道の考古学研究者を組織化した「北海道考古学会」が発足したが、学会発足の趣旨書、会則、入

会申込書など準備をしたのは大場利夫に協力を依頼された松下亘と竹田輝雄であった。
松下は、秋田鉱山専門学校を卒業後、札幌商工局、北海道開発局に勤めながら、名取武光の指導を受けフゴッペ洞窟、桃内遺跡、大曲遺跡、峠下遺跡、知床岬、美々遺跡などを手掛けた研究者であった。その後、北海道開拓記念館開設準備事務所特別学芸員に就任した松下は函館市西股遺跡、網走市二ツ岩遺跡などの発掘調査や、北海道開拓の村や北海道立北方民族博物館の開設準備にも関わっている。さらに、北方考古学に関する文献を収集し、5冊の文献目録となって北方考古学の研究に貢献した。
発足前の学会は資金的に脆弱であった。会場を手配したのは総会で幹事に選出されることになる石川辰也だった。石川は北海道拓殖銀行に勤めながら考古学に取り組んでいた。拓銀稚内支店時代のころから考古学に興味を持ち、稚内や猿払村などで調査を行い、1965年「宗谷郡浜猿払村遺跡の資料について」（『北海道の文化』８）、1966年「北海道宗谷郡浜猿払遺跡発掘調査報告」（松下亘共著『北海道考古学』第２輯）、1970年「宗谷郡猿払村遺跡出土の櫛目文土器について」（『北海道の文化』18）などの著作を残している。
退職後の平成３年頃からやり残した考古学に手を伸ばしていたが、平成15年の８月６日、亡くなっている。享年69歳であった。その後北海道考古学の発展を願い、考古学に対する熱意と情熱を傾けた個人の遺言により、北海道考古学会に320,000円を寄付している。この寄付は「石川氏寄付金」として北海道考古学会基金に積み立てられている。
北海道考古学会設立総会は昭和38年10月19日、研究発表が20日にそれぞれ拓銀本店において行われている。総会で撮られた写真には、大場利夫、武内収太、新岡武彦、峰山巌らに交じって、札幌西・南高校生が写っている。中には、後に北海道考古学を大きな足跡を残す若き日の宇田川洋、大沼忠春などの姿も見うけられる。
総会の出席者は72名と言われる。全道各地から研究者が駆け付けた。写真には愛下淳、溝口桐、富永慶一、扇谷昌康らの姿がある。会長に選出された大場は、昭和20年代後半から、先にあげた人々のほかに石川徹、松崎岩穂、宮下正司、桐谷力蔵、大谷良夫などと市町村を巻き込んで発掘調査を続けていた。道路の整備もされず車も少なかった時代、往還の難しい僻陬の地での調査も珍しくなかった。
彼らはある程度の学問的素養を備えた地域の指導者で教員、神主などを生業としながら、考古学は大場の指導を受けながら多くが独学で研究を続けていた。
石川徹は､｢大場先生の指導で静狩貝塚を発掘、それ以来の直弟子です。その後教員になってから手稲、浜益、恵庭、千歳と石狩管内の埋蔵文化財の研究に取り組んできました。42年に日本考古学協会員になったのも、先生の推薦でした」と話している（上田 1997）。その結びつき強いものであったようだ。
設立の準備段階では「各地の研究者が協力して遺跡の監守と保護に当る（略）それによって各自の研究面にも何らかのプラスが得られる」とされたが、総会では「研究者のための強力な会として発足」することになったのである。開発に伴う緊急調査は当時の北海道ではまだそれほど緊迫していなかった。
北海道考古学会の発足によって、地域を結ぶネットワークがつくられ、そうした環境のもとで報告・提言がなされることになる。人々は北海道考古学会を待ちわびていた。幹事に選出された石川辰也は後に「昭和38年拓殖銀行本店会議室における設立総会の熱意が忘れられません」（北海道新聞の８月９日朝刊死亡広告欄）と伝えている。
20日の研究発表には愛下　淳「御殿山式土器についての一考察」、角田東耕「西土狩遺跡について」、斉藤武一「旭川市豊岡遺跡に就て」、山崎博信「オニシトー遺跡について－石錐状石器の新例－」、扇谷昌康「鵡川町汐見墳墓遺跡」など全道各地の事例が報告されている。
多くの人々の熱意と手弁当による労力によって北海道考古学会は設立され、研究大会が行われたのである。
この時代、まだ、新発見の時代であった。先の学説を考証し批判する段階にまだいたっていなかった。
また、調査の精度や成果に不揃いがあり、社会教育の名のもとに遺跡が興味本位に発掘されたとする指摘も少なくない。大学での考古学講座は1966年京都大学で実験講座となり、その後多くの大学では発掘調査はもとより測量、写真、実測など実学の摂取に力がそそがれている。
博物館や行政に本州の大学に遊学し、考古学を学んだ人が奉職するようになると在野の研究者は次第に表舞台から姿を消していく。北海道考古学会の設立はそうした大きな時代のうねりの中での出来事であった。
（敬称略）

本稿の作成に当たり文献、学会発足当時の様子について出村文理氏にご便宜、ご教示をいただいた。

謝意を表するものである。

引用参考文献
北海道考古学会　1964『北海道考古学会だより』No.1
北海道考古学会　1964『北海道考古学会だより』No.2
大場利夫　1982「発掘と私」『北海道の先史文化』みやま書房
上田満男　1997「大場利夫」『わたしの北海道－アイヌ・開拓使－』すずさわ書店
右代啓視　1997「石川辰也氏を追悼する」『北海道考古学だより』58号
君　尹彦　2008『松下著作資料目録』北海道立図書館　北の資料　119
竹田輝雄・野村　崇・出村文理・菊池俊彦　2009「座談会「北海道考古学会草創期のころ」」『北海道考古学』第45輯

入会者のお知らせ

≪新入会員≫　※敬称略
榊田朋広（札幌市）

会費納入のお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　（学生）3,500円

北海道考古学会だより　　第102号　　2012年３月21日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒062-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX：(011)706-4000
E-mail　：hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　(011)668－1131